

「国立国会図書館 科学技術に関する調査プロジェクト」 ヒアリング報告書

1 実施日時

2012年1月5日（木）13:00～14:10

2 実施対象者

橋本 俊幸 氏（（独）防災科学技術研究所 社会防災システム研究領域 アウトリーチ・国際研究推進センター センター長）

3 実施者

山口 健太郎（（株）三菱総合研究所 地域経営研究本部 地域経営コンサルティンググループ 研究員）

4 ヒアリング内容

(1) 東日本大震災を経て、実施の必要性が高まったと考えられる研究内容・領域について

（東日本大震災を受けて、研究所の中期計画を変更するなど、具体的な動きはあるか。）

- 変更しなければいけないという話はあるが、具体的な議論はこれからである。中期計画の変更となれば組織としての決定が必要であるので、現段階で話ができたとしても、それは研究者個人としての見解に過ぎないということになる。
- 個人的な見解としては、科学的な知見を「どれだけ社会に対して伝達できるか」という部分が強く問われていると考える。リスク・コミュニケーションと言っても良い。それが研究成果・知見を社会に活かしていく難しさの根幹でもある。今世間では、分かりやすく、センセーショナルな内容が注目されがちである。しかし、そのような内容の言説が、常に科学的に正しいとは限らない。伝える側としても、分かりやすい部分を説明し、難しい内容をしっかり説明しようとしていないかもしれない。したがって、全ての人にとって「リテラシー」が必要となる。
- リテラシーには2種類ある。アマチュア側だけの問題ではなく、プロ側の問題もある。「一般の人がどう感じ、動くのか」ということを分かっておくことが、プロ側のリテラシーである。またアマチュア側のリテラシーとは、S波、P波の意味するところを正確に理解する、ということでは必ずしもない。地震が起こったときに、どうすれば助かり、生き延び、復興していくことができるかといった、「どうしたらいいのか」を知っていることがリテラシーの重要な部分であり、座学だけでは得ることができない部分である。「釜石の奇跡」の意義はそこにある。

（聞き手：（「釜石の奇跡」のキーパーソンである群馬大学・）片田教授は、要素技術の開発から、社会への実装に至るまで、全てのフェーズを研究のスコープに入れることができ、地域の取り組み意欲も巻き込みながら、各フェーズの取り組みを研究としても成立させることができってしまうという意味で、特別な研究者だと認識しているが。）

- 全ての研究者が片田教授のようにできるとは思わない。実際に地域に根ざしているキーパーソンに知見を伝達し、その「伝達」された人材が、片田先生の分身となるようなイメー

ジで、さらに周囲の人たちを巻き込み、その取り組みを行うことが必要であるという納得感を広げていきながら、地域全体として知見を共有・伝承する仕組みにしなければならない。

(2) 災害研究成果を、実社会のシステムの中で活用できている好事例について

- 気象庁の地震速報や、国土交通省が行っているゲリラ豪雨の予測（XバンドMPレーダ雨量情報）については、防災科学技術研究所の成果を活用している事例と言える。
- 災害リスク情報プラットフォームも、良い事例である。前述のフォーラムにおいて、担当者である長坂氏も「復旧・復興支援とこれからの防災力向上に向けた取り組み」、「防災研究コミュニティと社会とのインタラクション —防災研究は社会のコンサルティング機能を果たし得るか?—」などの話題で登壇予定である。

(3) 社会における研究ニーズの把握の方法について

- 誰が回答するかによって（回答者の研究領域によって）考え方は大きく変わると考えられるが、個人的な見解としては、研究者自身がどれだけ現場に入っているかということではないかと考える。現場とのインタラクションの中で出てくる意識が、研究ニーズである。システムを現場に持ち込んだだけではうまくいかない。ニーズを踏まえるだけではなく、現場で使えるように修正し、作りこむ必要がある。

(4) 地域に根ざし、継続的かつ分野横断的な研究を遂行できる人材育成について

- 人材育成については、地方などでは大学の役割がやはり大きいと考える。防災の実務は自治体／行政が担当すべきなので、大学としてはそれに対して知的貢献をしながら、実際に地域に根ざしている現場の人たちを育成するサポートをするべきである。こういった「研究機関の社会貢献」は重要である。ただしリソースの問題もあり、育成できる人材の絶対量には限りがある。そのため、直接「育成」された現場の人材が、さらに周囲の人たちを巻き込み、教育／伝承できるように留意すべきである。
- 個人的な見解としては、救急救命や、組織論の部分についてしっかりとした人材の育成が必要と考える。災害が発生してから後の、フェーズごとのプロトコルをちゃんとやったのかどうか。指示系統についてのシミュレーションをやっていたのかどうか。自衛隊についてはある程度できたはずだが、政治や行政機能についてはおそらくしっかりとはいなかっただろう。